

雪丸の町

「この像、雪丸だね。」
JR王寺駅の中央改札から北側の階段を下りると、ユキコの目の前に石でできた犬の像がありました。お父さんがユキコに言いました。

「そっだよ。本物の雪丸像はどこにあるか知ってる?」

「達磨寺でしょ。三年生のときに勉強したよ。この

像はゆるキャラの方の雪丸。」

そう話すユキコにほほえんで、お父さんは言いました。

「王寺駅から達磨寺までの道には、雪丸の足跡がつけられていて、訪れる人を案内しているよ。雪丸ロードって言うんだって。王寺駅には町外からも多くの人が集まるから、聖徳太子の愛犬といわれる雪丸や達磨寺のことを知らせて、訪ねてもらえるようにしているんだね。」

お父さんの話を聞きながら、ユキコは王寺町のうっかりかわりについて学習したことを思い出していました。

今から約一三〇年前、奈良県で初めての鉄道が王寺―奈良間に開通し、その後、王寺からは大阪や大和高田などとも鉄道でつながるようになりました。さらに、田原本や生駒とつながる路線もつくられるなど、「鉄道の町」として王寺町は発展してきました。もとは農村でしたが、駅前を中心に商店がつけられ、鉄道関係の仕事をする人々が住むようになりました。人口がどんどん増え、九〇年余り前の一九二六年に、ついに町制が施行されて王寺町となったのです。

「新王寺駅の東側にある舟戸児童公園には蒸気機関車が置いてあるよね。デゴイチだったっけ。」

「そうそう。昔、実際に走っていた機関車で、今も鉄道の町のシンボルとして大切に保存されているんだよ。王寺町のマークは〇(まる)の中に王という字がデザインされているけど、〇はローマ字の〇の頭文字という意味だけでなく、鉄道の車輪を表したものであるそうだよ。」

「ふうん。鉄道の町かあ。」

買い物した後、お父さんとユキコは地域交流センターに行きました。「雪丸ミニプラザ」



王寺町の町章



達磨寺の雪丸像



王寺駅北口の雪丸像

には大きな雪丸のフィギュアがあり、王寺町の四季の風景や観光スポットなどがいろいろいされています。雪丸のドローンが、明神山からの景色をいろいろな映像も流されています。ハンカチやストラップなどの雪丸グッズも販売されていて、ユキコも欲しくありません。

「雪丸は、多くの人々に町のいいところを知らせる観光・広報大使だそうだよ。利用客が多く集まる王寺駅周辺だけでなく、最近では県内の他の町や県外にも出て行って王寺町のことを知らせてるんだって。インターネットなどで雪丸が王寺町をしようかいする映像も見ることができるようになってるらしいよ。今では王寺町は雪丸の町だね。」

ゆるキャラとして町のイベントに登場する姿やあちこちで見かけるイラストで、雪丸のことをよく知っていたユキコでしたが、なんだかとぼけたような雪丸の顔が前よりしつかりした顔に見えてきて、思わずクスツと笑ってしまいました。

「ゆるキャラの雪丸をつくることにした町の人たちは、どんな願いを雪丸にこめたんだろうね。ユキコなら、雪丸に王寺町のどんなことを多くの人に知らせてもらいたいと思う？」

何だかお父さん、先生みたいなことを言ってるなどユキコは思いました。



雪丸ミニプラザ

○ ゆるキャラの雪丸をつくることにした町の人たちは、どんな願いを雪丸にこめたのでしょうか。

○ あなたは、王寺町のどんなことを多くの人に知らせたいと思いますか。